

報道関係者各位

2026年5月13日  
野村不動産株式会社

リリースカテゴリ：インフラ・インダストリー

## インフラ・インダストリー事業本部を新設、社会・産業のインフラ開発を強化 Oishii Farm と資本業務提携

— 次世代の食糧インフラである植物工場分野で、不動産開発力と農業分野のシナジー創出 —

### 本ニュースリリースのポイント

1. 完全閉鎖型の植物工場によるいちごの量産化を世界で初めて実現した Oishii Farm と資本業務提携
2. 不動産開発の知見を活かして Oishii Farm と連携し、インフラ・インダストリー領域の事業機会獲得を目指す
3. 2026 年度にインフラ・インダストリー事業本部を新設し、これまで手掛けてきた物流施設に加え、データセンター、エネルギー、工場など、社会・産業インフラを支える新たなアセットの開発を強化する体制を構築
4. 当社グループの掲げる 2030 年ビジョン実現に向けた「新領域ビジネスの獲得」を狙う戦略投資

野村不動産株式会社（本社：東京都港区／代表取締役社長：松尾 大作、以下「当社」）は、植物工場事業※1を展開する Oishii Farm Corporation（本社：アメリカ ニュージャージー州／CEO：古賀 大貴、以下「Oishii Farm」）へ出資し、不動産領域における相互の事業の発展を目的とした資本業務提携契約を 2025 年 7 月 30 日に締結しました。本提携を通じ、Oishii Farm の成長に貢献するとともに、当社のインフラ・インダストリー領域における新たな事業機会の創出を目指します。



<アメリカ ニュージャージー州の Oishii Farm 植物工場>



<Oishii Farm 生産のイチゴ>

### 1. 本資本業務提携の目的と背景

気候変動、労働力不足、食料供給の不安定化など、農業・食の領域を取り巻く社会課題は世界的に深刻化しています。こうした中、天候に左右されにくく、安定的かつ高品質な生産を可能とする植物工場は、次世代の食糧供給インフラとして期待が高まっています。当社は本資本業務提携を通じて、アグリテックの発展に貢献してまいります。

一方で、植物工場の社会実装・事業拡大には、栽培技術のみならず、用地取得、施設開発、運営を支える不動産面での高度な知見が不可欠です。当社は、総合デベロッパーとして培ってきた知見を活かし、植物工場の開発に向けた検討を Oishii Farm と進めております。

また当社グループは、2030 年ビジョン「まだ見ぬ、Life & Time Developer へ」の実現を目指し、グループ全体で人々の「幸せ」と社会の「豊かさ」の最大化を追求することを掲げています。同ビジョン実現に向けた事業方針の 1 つとして、26/3 期～28/3 期の 3 カ年で、成長の加速に資する約 1,000 億円の戦略投資※2について、3 点の重点テーマを定めて行う予定です。同投資のテーマの 1 つに「新領域ビジネスの獲得」を位置付けており、本資本業務提携は、こうした戦略投資の一環として実施するものです。

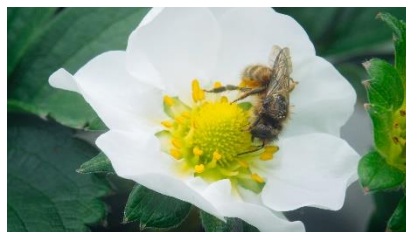
## 2. Oishii Farm について

Oishii Farm は、完全閉鎖型の植物工場において、安定的なイチゴの量産に世界で初めて成功し、米国を中心に事業を拡大しているアグリテック企業です。イチゴの生育に最適な温湿度や光量などの環境を構築するだけでなく、独自技術であるデータサイエンス・AI を活用することで、ハチによる自然受粉の成功率を高め、イチゴの量産化を実現しました。2024 年にはアメリカ ニュージャージー州に、太陽光発電や水の循環利用を取り入れた大型植物工場を稼働させ、サステナブルな生産体制を強化しています。

日本における研究開発拠点「オープンイノベーションセンター」を核として、植物工場の技術高度化・標準化を図り、今後のグローバル展開を見据えた事業基盤の構築を進めています。



<Oishii Farm 植物工場 内部>



<ハチによる高い受粉成功率を実現>



<画像認識技術を活用したロボットによる自動収穫>

## 3. インフラ・インダストリー事業本部について

当社は、2026 年度にインフラ・インダストリー事業本部を新設し、物流施設、データセンター、エネルギー、工場など、社会・産業インフラを支えるアセットの開発をこれまで以上に強化する体制を構築しております。

行政、地権者、事業パートナーなど多様な関係者をつなぐコーディネーター機能を発揮し、社会課題の解決と産業基盤の高度化に資する開発を推進することで、当社が目指す「インフラ・インダストリー・デベロッパー」への進化を図ってまいります。

当社は、植物工場を社会課題の解決に資する新たな不動産アセットと捉え、インフラ・インダストリー事業のさらなる進化を目指してまいります。

## 4. 野村不動産株式会社 代表取締役社長 松尾 大作 コメント

当社は、総合デベロッパーとしてこれまで培ってきた不動産開発の知見を活かし、Oishii Farm との資本業務提携を通じて、植物工場の開発に取り組んでまいります。植物工場はこれまで存在してきた分野ではありますが、同社のコア・コンピタンスにより、ついに新たなフェーズへ進むものと期待を寄せております。また植物工場は、当社が手掛ける不動産アセットとしても、将来性の高い領域であると捉えております。当社としては出資に留まらない戦略的パートナーとして、今後の植物工場開発における協業を通じて、食の安定供給やサステナブル社会の実現に貢献してまいります。

## <Oishii Farm Corporation 概要>

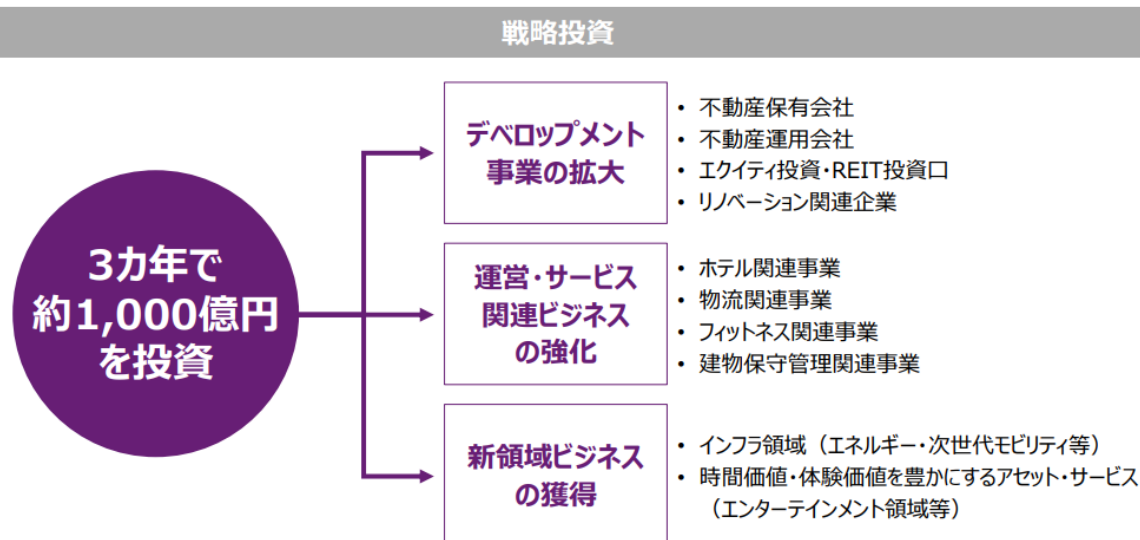
会社名	Oishii Farm Corporation (日本法人：Oishii Farm 株式会社)
本社	Jersey City, New Jersey, United States (日本法人：東京都羽村市神明台 2-6-13)
代表者	古賀 大貴 (CEO)
会社 HP	<a href="https://oishiifarm.co.jp/">https://oishiifarm.co.jp/</a>
会社説明	Oishii Farm は、サステナブルな農業と高品質な農産物の安定供給の実現を目指し、完全閉鎖型の植物工場を展開する企業です。2017 年に米国ニュージャージー州で創業し、植物工場でのいちご量産化を実現。米国東海岸を中心に販売エリアを拡大するとともに、日本においても研究開発拠点「オープンイノベーションセンター」の立ち上げを進めています。
事業内容	植物工場における野菜・果物の生産

2026 年 5 月 13 日 Oishii Farm 報道発表資料：[シリーズ C ファーストクローズで 240 億円を調達](#)

### ※ 1 完全閉鎖型植物工場について

外部環境から完全に遮断された屋内空間で、LED 照明や空調システムを用いて、太陽光を一切入れずに、温度・湿度・CO<sub>2</sub>濃度・養液を人工的に制御しながら作物を栽培する施設。衛生的な環境で栽培されるため、農薬を殆ど使わない栽培が可能で、天候や季節・地理条件に左右されずに、通年安定して作物を生産できる特徴をもつ。

### ※ 2 野村不動産が掲げる戦略投資に関して



[https://www.nomura-re-hd.co.jp/ir/pdf/plan2025\\_presen.pdf](https://www.nomura-re-hd.co.jp/ir/pdf/plan2025_presen.pdf)

(経営計画（長期経営方針・3カ年計画（2026/3期～2028/3期））p.31より抜粋)